扶桑薬品工業株式会社

東証プライム市場：4538

Supporting Life, Nurturing Life

FUSOビジョン2030

2027年3月期
（第104期）
上半期決算補足説明資料

2026年11月11日



Copyright © FUSO Pharmaceutical Industries,Ltd. All Rights Reserved.

2026年度上半期決算補足説明資料の内容

2026年度上半期　業績ハイライト
2026年度上半期　営業利益増減分析
主要領域別売上高（推移）
主要領域別売上高（同期比）
主要領域別売上高（医療用医薬品製品別）
医療用医薬品の売上構成
2026年度通期業績予想
研究開発の進捗
中期経営方針の進捗
株主還元

2026年度上半期　業績ハイライト

（単位：百万円）	売上高	営業利益	経常利益	中間/当期純利益
2026年度上半期	修正前　31,500 32,395	修正前　800 1,743	修正前　600 1,434	修正前　500 1,041
対前年	+1,165　+3.7%	+495　+39.7%	+303　+26.8%	+209　+25.2%

診療ガイドライン改定を背景にリクセルの販売が伸長し、加えて不採算品再算定の対象となったセルニルトン等の影響により増収
中東情勢の緊迫化に伴う関連原資材の価格高騰により想定していた売上原価上昇の影響の一部が下半期にずれ込み、上半期での影響は限定的
上半期に想定していた新規ライセンス案件の契約締結及びそれに伴う支払いが下半期にずれ込み、想定よりも研究開発費が減少

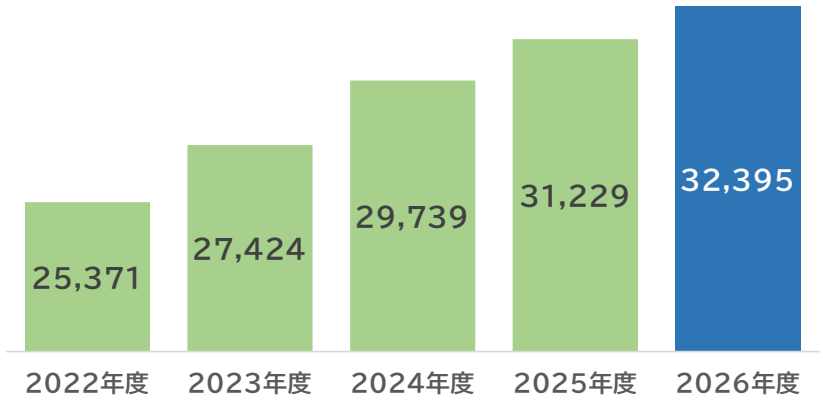
2026年度通期業績予想	修正前　63,200　+1,600 64,800	修正前　2,000　+400 2,400	修正前　1,400　+400 1,800	修正前　1,300　+200 1,500
進捗率	50.0%	72.6%	79.7%	69.4%

売上は順調に推移する見込みで通期予想を上方修正も、中東情勢を背景とする関連原資材価格高騰の影響が顕在化し原価率は悪化する見込み
研究開発の進捗に伴い研究開発費の増加が見込まれるものの、上半期の実績を加味し、各利益段階においても通期業績予想を上方修正
年間配当は2030年度までは累進配当とし、中間配当金は45円/株、期末配当金は1円増配し46円/株で実施予定

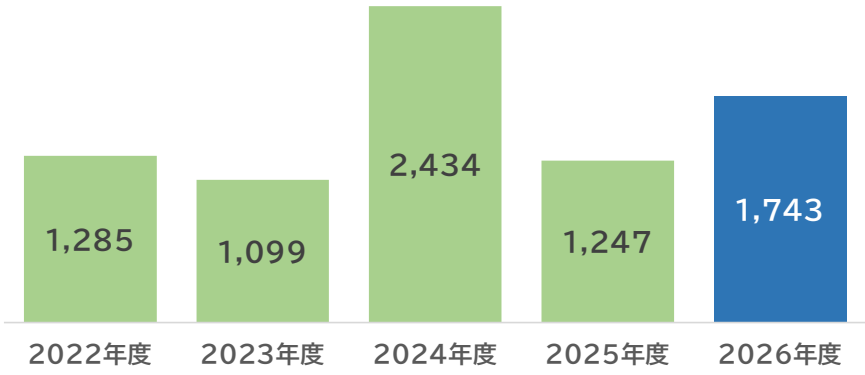
2026年度上半期　業績ハイライト

（百万円）	2025年度 上半期	2026年度 上半期	業績予想（修正前）	業績予想 達成率
売上高	31,229	32,395	31,500	102.8%
営業利益	1,247	1,743	800	217.9%
経常利益	1,131	1,434	600	239.0%
中間純利益	831	1,041	500	208.2%

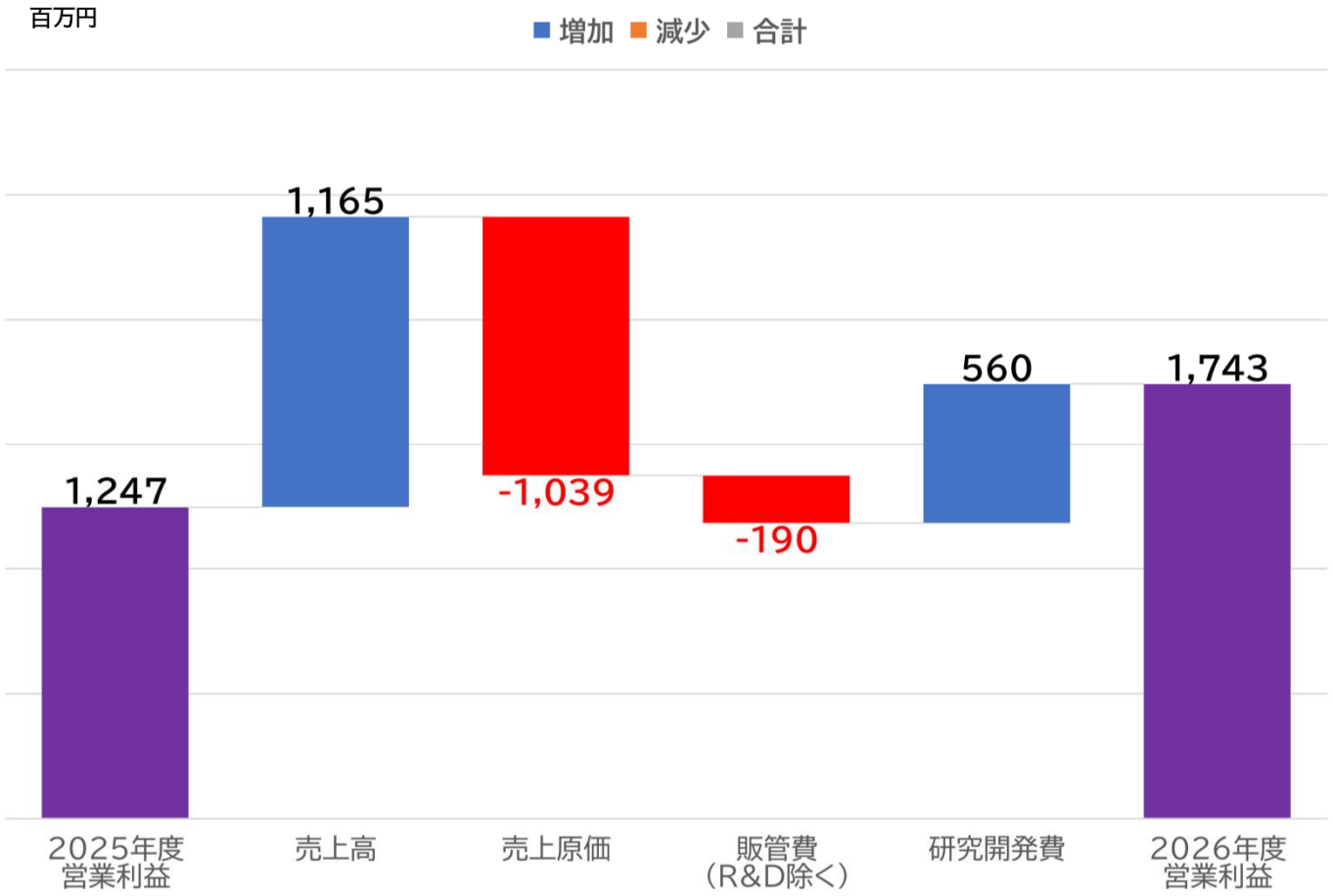
上半期売上高の推移（百万円）



上半期営業利益の推移（百万円）



2026年度上半期　営業利益増減分析



売上高

診療ガイドライン改定を背景にリクセルが伸長
不採算品再算定の対象となったセルニルトン等が増収に寄与

売上原価

原資材・製造委託品・導入品の価格の高騰
設備維持対応費用の増加

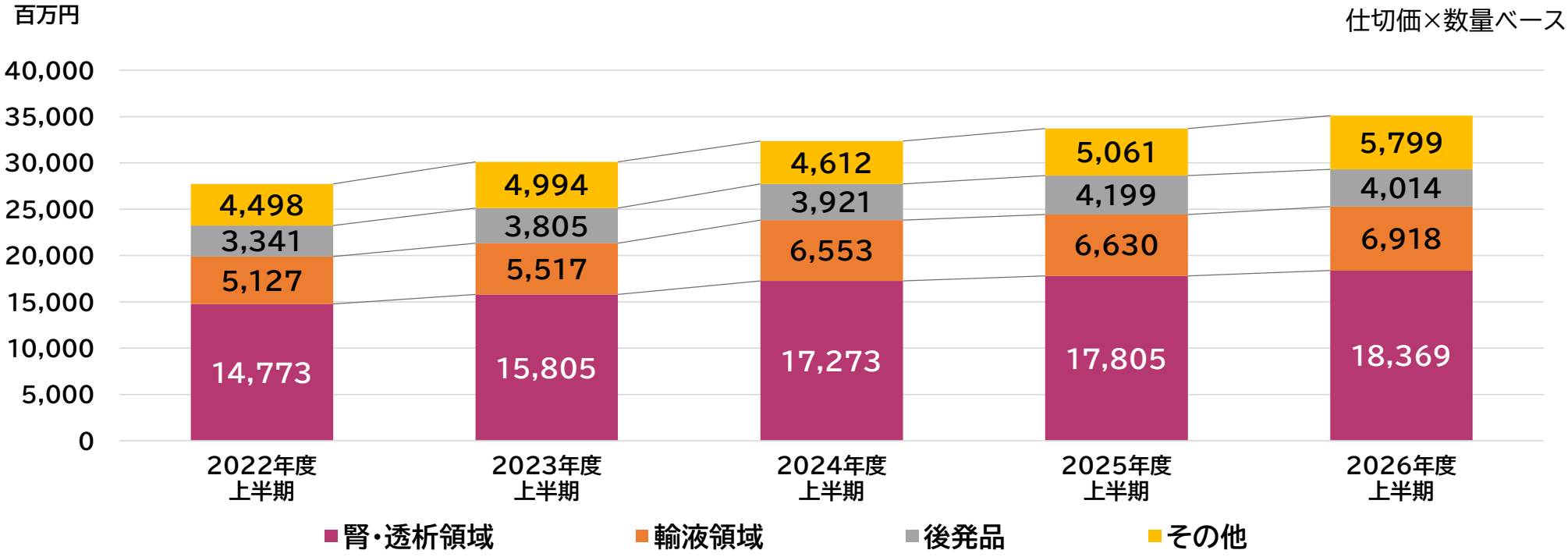
販売費及び一般管理費

運送関連費の増加

研究開発費

前年同期はDMX-200の国内治験開始に伴うマイルストーンペイメントが発生

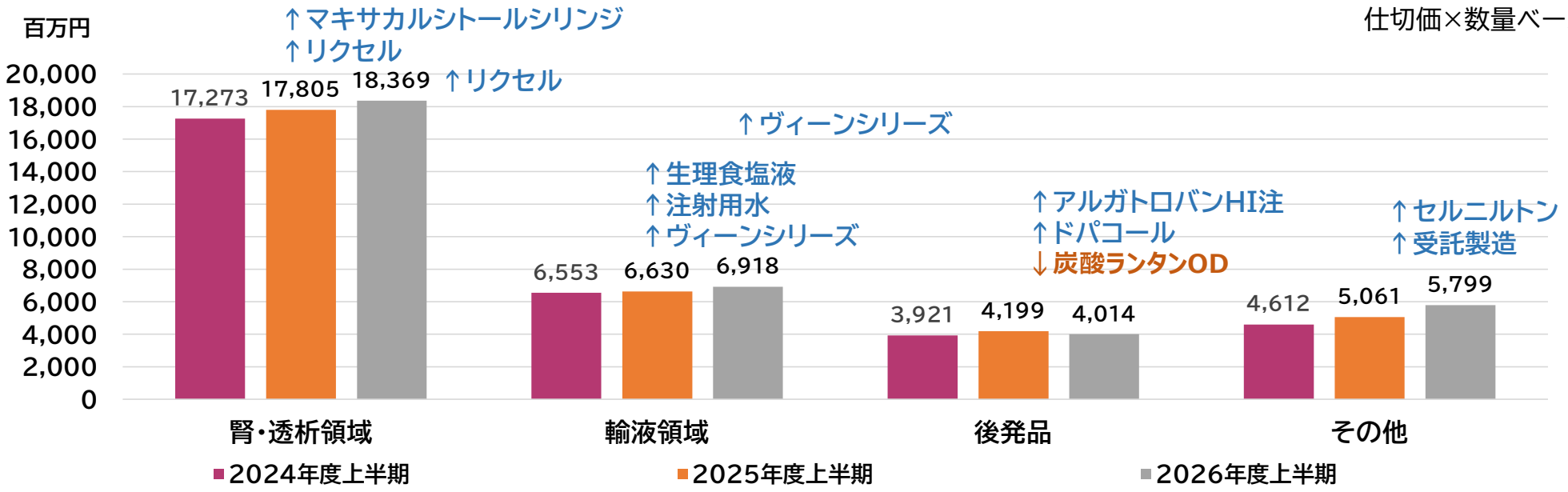
主要領域別売上高(推移)



透析剤や輸液製剤、透析関連の後発品であるマキサカルシトールシリンジが伸長、2025年度以降は診療ガイドライン改定を背景にリクセルも大きく伸長、加えて製造受託・導出・輸出事業が順調に推移し、売上高は右肩上がりで推移

今後、腎・透析領域や輸液領域での安定的な売上を軸として、腎・透析分野に強い当社の強みを最大限に活かし、この分野での新薬や後発品の開発・販売に注力し、また、ART(生殖補助医療用製品)、製造受託・導出・輸出事業も着実に進捗させることでさらなる飛躍を目指す

主要領域別売上高(同期比)



【主な増減要因】

腎・透析領域:診療ガイドライン改定を背景に、さらにエビデンスレベルが明確化されたリクセルが大きく伸長

輸液領域:ヴィーンシリーズを中心とした電解質輸液の新規増販により伸長

後発品:アルガトロバンHI注が急性期領域で着実に浸透し増収、ドパコールが先発品からの切り替えや選定療養等により増収、炭酸ランタンODは減収

その他:不採算品再算定や疾患啓発活動による拡販が功を奏しセルニルトンが増収、受託製造も伸長

主要領域別売上高(医療用医薬品製品別)

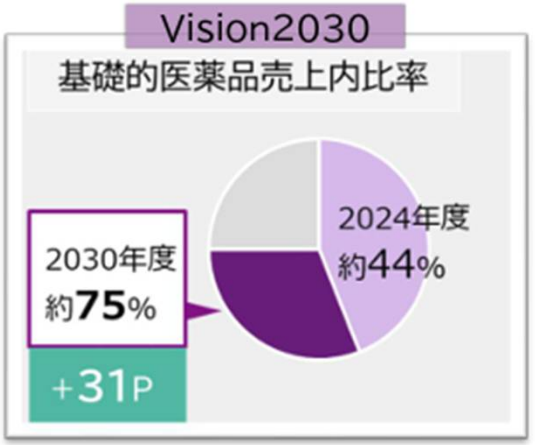
仕切価×数量ベース

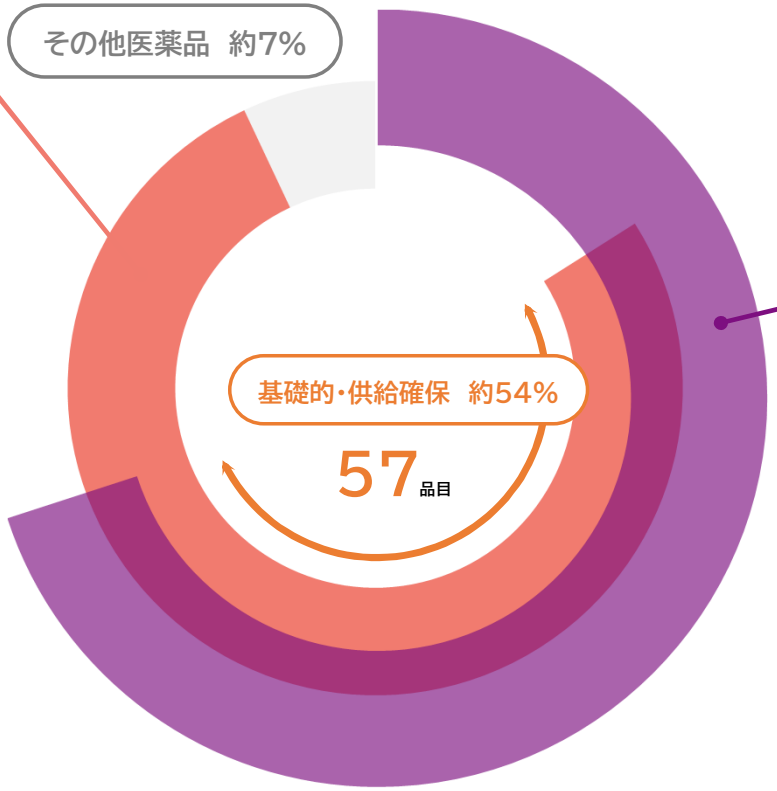
単位:百万円

製品名 (薬効)	2025年度 上半期実績	2026年度 上半期実績	増減率	2026年度 通期計画
キンダリー透析剤 (人工腎臓用透析液)	10,951	10,761	▲1.7%	22,122
生理食塩液 (血液代用剤)	4,173	4,192	0.5%	8,214
マキサカルシトールシリンジ (二次性副甲状腺機能亢進症治療剤)	2,268	2,325	2.5%	4,557
セルニルトン (前立腺疾患治療剤)	1,696	1,967	16.0%	3,931
ドパコール (パーキンソニズム治療剤)	1,057	1,183	11.9%	2,139

医療用医薬品の売上構成 （2025年度販売数量実績ベース、薬価および分類は2026年度）

基礎的医薬品 ＋ 供給確保医薬品 ＝ 93%





供給確保医薬品

特定医薬品であって、次に掲げる事項を勘案し、その安定的な供給の確保を図る必要性が高いものとして、厚生労働大臣が厚生科学審議会の意見を聴いて指定するものをいう。

一　その用途に係る疾病にかかった場合の病状の程度
二　当該特定医薬品と代替性のある特定医薬品又は治療方法の有無
三　その製造に要する特別の技術の有無、原料又は材料の供給事情その他の製造又は供給に関して留意すべき事項
四　その他厚生労働省令で定める事項

基礎的医薬品

保健医療上の必要性が高く、医療現場において長期間にわたり広く使用され有効性・安全性が確立されており、継続的な市場への安定供給確保が必要であることから、一定要件下で薬価が維持される措置が行われた医薬品

2026年度 通期業績予想

(単位:百万円)	2025年度 通期実績	2026年度通期業績予想				2026年度 上半期実績
		(修正前)		(修正後)		
	金額	金額	対前増減	金額	対前増減	金額
売上高	62,307	63,200	+893	**64,800**	+2,493	32,395
売上原価	46,312	47,500	+1,188	**48,700**	+2,388	24,164
(原価率)	74.3%	75.3%	−	**75.2%**	−	74.6%
販管費	13,355	13,700	+345	**13,700**	+345	6,487
(研究開発費)	(2,013)	(2,100)	+87	**(2,100)**	+87	(665)
営業利益	2,639	2,000	△639	**2,400**	△239	1,743
経常利益	2,349	1,400	△949	**1,800**	△549	1,434
当期純利益	2,011	1,300	△711	**1,500**	△511	1,041

【2026年度通期業績予想(上方修正)のポイント】

売上高:リクセルやセルニルトン、ドパコール等、上半期において好調であった品目が、下半期も堅調に推移すると見込み、16億円上方修正

売上原価:上半期においては限定的であった中東情勢を背景とする関連原資材価格高騰の影響が下半期に顕在化

研究開発費:検討中のライセンス案件に関する支払いが当期中に発生する予定であり、通期ではほぼ当初予算通りで推移

営業利益/経常利益/当期純利益:上半期の実績及び上記要因を踏まえ、営業利益/経常利益で4億円、当期純利益で2億円上方修正

研究開発の進捗

医療用医薬品

開発コード（一般名）	対象疾患	作用機序	開発ステージ					開発形態
			第Ⅰ相	第Ⅱ相	第Ⅲ相	申請	承認	
DMX-200（Repagermanium）	巣状分節性糸球体硬化症	ケモカイン受容体2（CCR2）阻害作用			実施中			共同開発

DMX-200：ARBの併用により、ケモカイン受容体2（CCR2）をより強く阻害することによって、炎症の原因となる免疫細胞（マクロファージ）が腎臓へ過剰に集積することを抑制し、組織の炎症や損傷を防ぐことが期待される、巣状分節性糸球体硬化症（FSGS）を対象とした新規作用機序を有する候補物質です。

不妊治療・体外受精関連製品

開発品目	使用目的	開発形態
胚培養用培養液	生殖補助医療	共同研究

胚培養用培養液（共同研究）
胚の質の低下に関与する蛋白質を抗体で抑制する新たな概念に基づく胚培養用培養液です。

研究開発の進捗　DMX-200開発進捗状況

	開発コード 予定する適応症	Phase1	Phase2	Phase3	申請	承認・上市
腎・泌尿器	DMX-200 巣状分節性糸球体硬化症（FSGS）	DMX-200-101 海外（2017年）	DMX-200-202 海外（対象：FSGS） （2018年～2020年）	ACTION3 DMX-200-301 海外（2022年5月～） 日本（2025年5月～）	日本 申請予定 2029年度	日本 上市想定 2030年度

巣状分節性糸球体硬化症（FSGS）

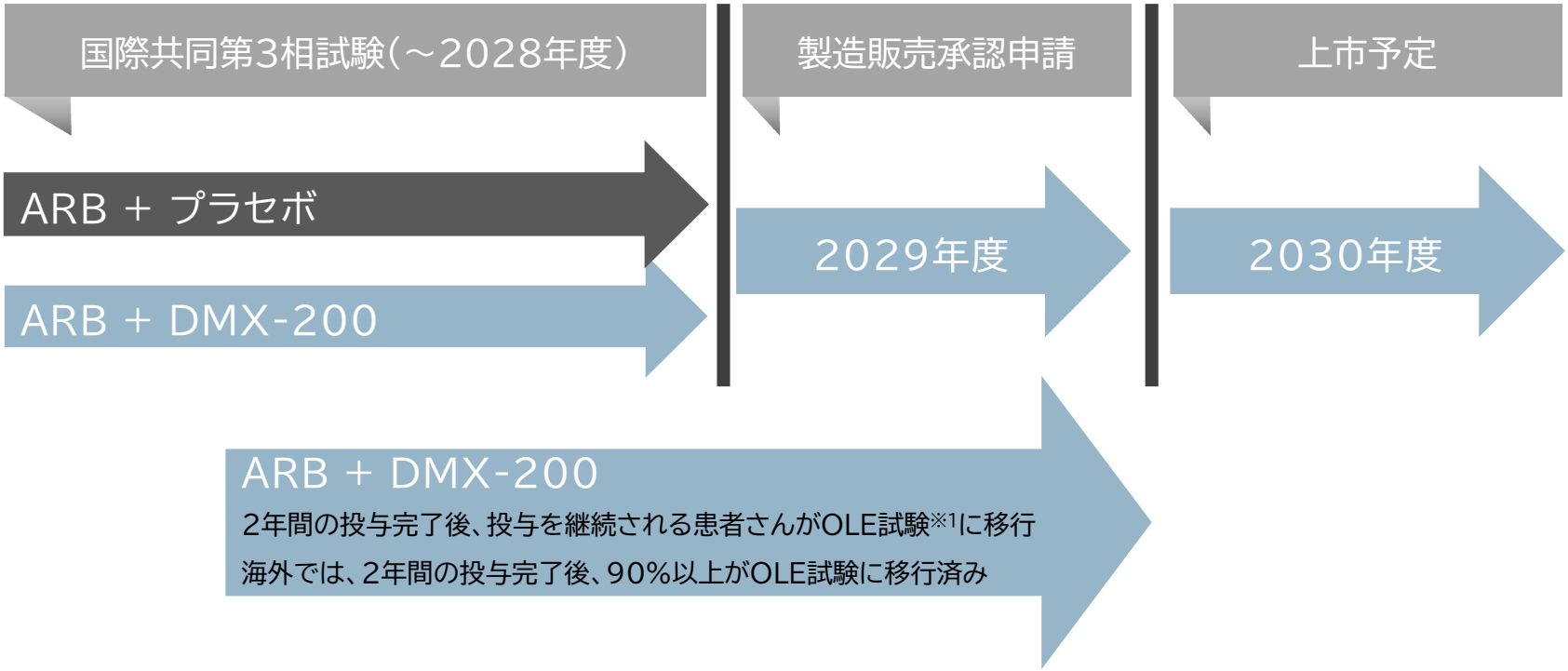
- 巣状分節性糸球体硬化症（FSGS）は、一次性ネフローゼ症候群 ※1（指定難病222）の主要な原因の一種
- 日本国内におけるFSGSの患者数は、約1,400人※2、3、4
- 既存の治療法では、治療抵抗性を示したり、再発（40%※5）を伴うことがあり、腎不全に移行するリスクが高い
- 腎移植後のFSGS患者において、再発が認められることもある
- 現在、日本においてはFSGSの効能・効果で承認されている医薬品はなく、ステロイドや免疫抑制剤に頼ることなく、長期的な治療効果と副作用が少ない、新しい治療方法を提供する薬剤開発が望まれている
- DMX-200は、主要地域（米国、欧州）で希少疾病用医薬品の指定を受けており、日本でも2025年9月29日に指定済み

※1：腎糸球体係蹄障害による蛋白透過性亢進に基づく大量の尿蛋白漏出と、これに伴う低蛋白アルブミン）血症を特徴とする疾患　※2：特定医療費（指定難病）受給者証所持者数，年齢階級・対象疾患別，令和4年
※3：難病情報センター　一次性ネフローゼ症候群（指定難病222）　※4：エビデンスに基づくネフローゼ症候群診療ガイドライン2020　※5：Clinical and Experimental Nephrology（2020）24:526-540

研究開発の進捗　国際共同第3相試験（ACTION3）について

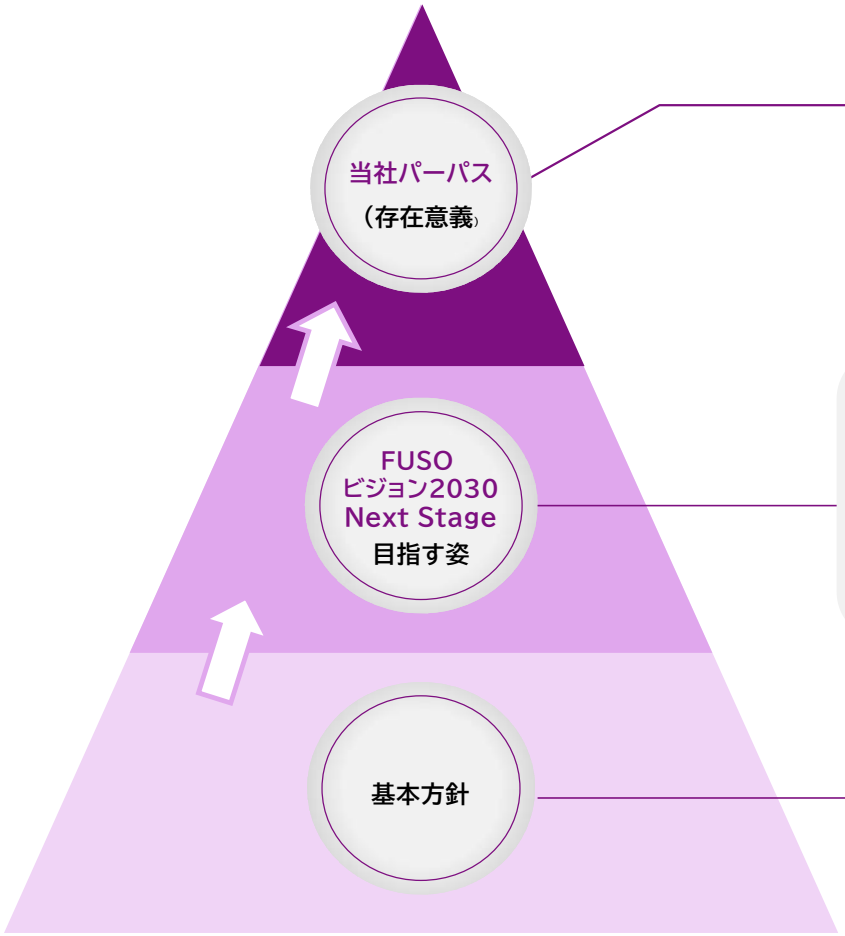
ACTION3
FSGS CLINICAL STUDY

日本を含む21の国・地域で予定症例の286例を超える333名の患者さんが治験に参加



※1：Open Label Extension試験　治験終了後も希望する患者様に対して、薬剤の投与を継続し、長期的な有効性・安全性を確認するための試験

中期経営方針の進捗



パーパス（存在意義）

いのち　いのち
生命支えて、生命育む

わたしたちは、いのちを支える、
なくてはならない医薬品をつくり続けます



FUSOビジョン2030 当社の目指す姿

徹底した品質管理と持続的な安定供給を行う基礎的医薬品メーカーとして、
そして腎臓・泌尿器領域におけるアンメットメディカルニーズに対応する
スペシャリティファーマとして、
医療を通じて社会を支える、なくてはならない企業となる

基本方針

研究・開発	生産	販売・マーケティング	経営管理体制	人的資本	サステナビリティ

中期経営方針の進捗（生産）

岡山第二工場の建設

約140億円　投資規模（見込み）

- ✓ 鉄骨5階建て／製剤棟 約7,000㎡（延床面積）＋自動倉庫
- ✓ 2026年12月着工→2028年3月竣工→2028年末生産稼働開始
- ✓ 生産能力の増強と安定供給体制の強化に向け、計画を具体化



建設予定地



完成イメージ

輸液・注射剤ライン更新

2025年公表時の前提

2030年までに更新完了

投資規模 約120億円

前提を見直し

✓ 市場・コストを見極め、投資規模と実施時期を再精査

中期経営方針の進捗（人的資本）

基本方針

将来の成長を支える人材の採用と育成を戦略的に強化し、従業員エンゲージメントを向上させる施策を積極的に展開する

重点テーマ

従業員エンゲージメントの向上

これまでの主な進捗

01	資産形成支援	従業員持株会の奨励率を引き上げ
02	柔軟な働き方	フレックスタイム制を導入
03	経営との対話	経営陣が全拠点でタウンホールミーティングを実施
04	家族とのつながり	ファミリーデー開催予定

リノベーション後の道修町本社







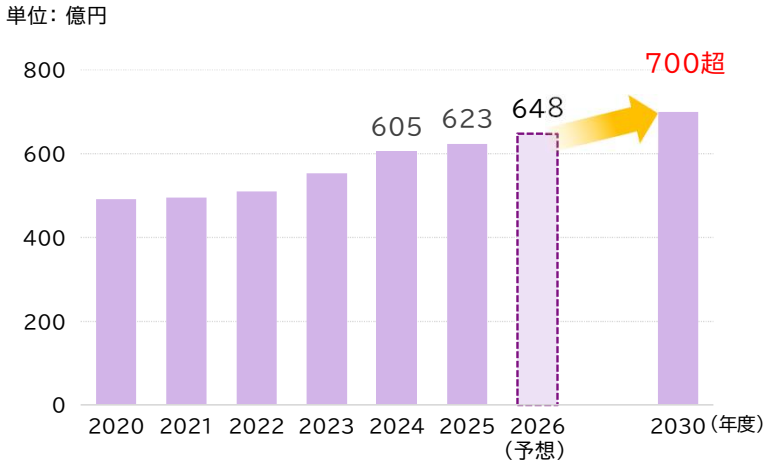
FUSO Pharmaceutical Industries, Ltd.

中期経営方針の進捗（主要な経営指標）

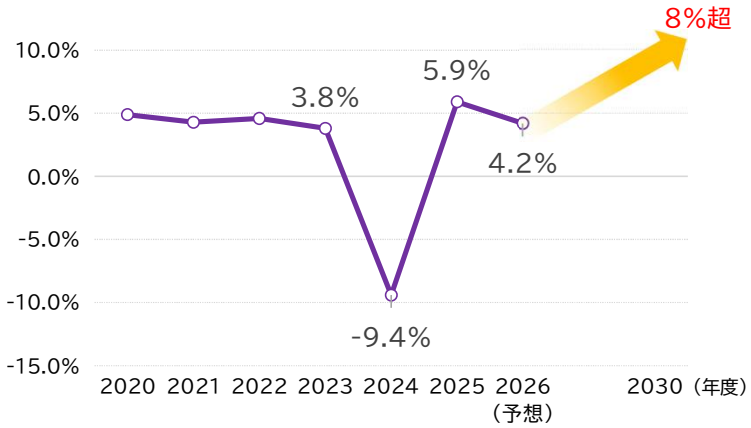
**成長投資の負担により、2028年ごろまでは利益水準が低下するものの、
2029年度以降は投資の成果によって回復基調に。2030年度にはROE8%超を目指す。**

- 2028年度　岡山第二工場稼働
- 2030年度　DMX-200上市

売上高



ROE



※25.3期は訴訟関連損失引当金繰入額87億4,400万円を特別損失として計上

株主還元方針について

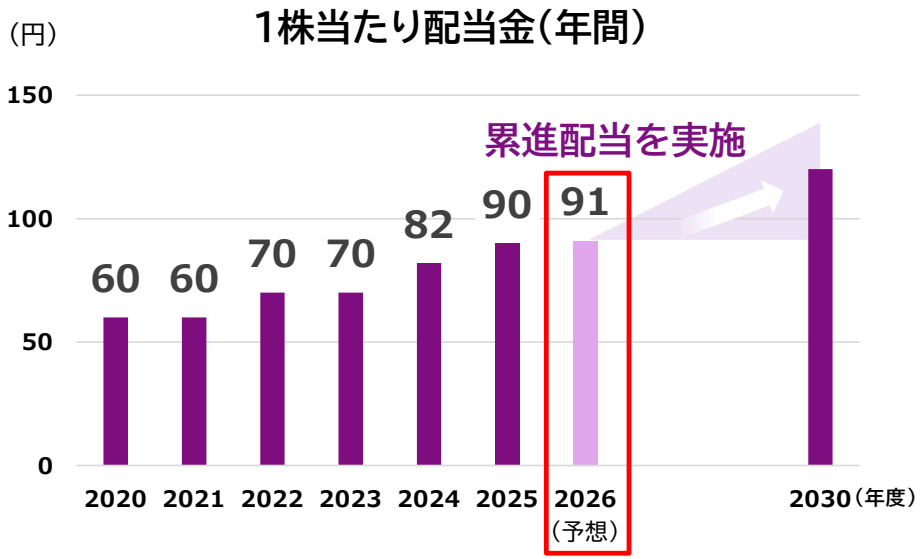
基本方針： 内部留保の充実を維持しつつ継続的かつ安定的な配当を行う

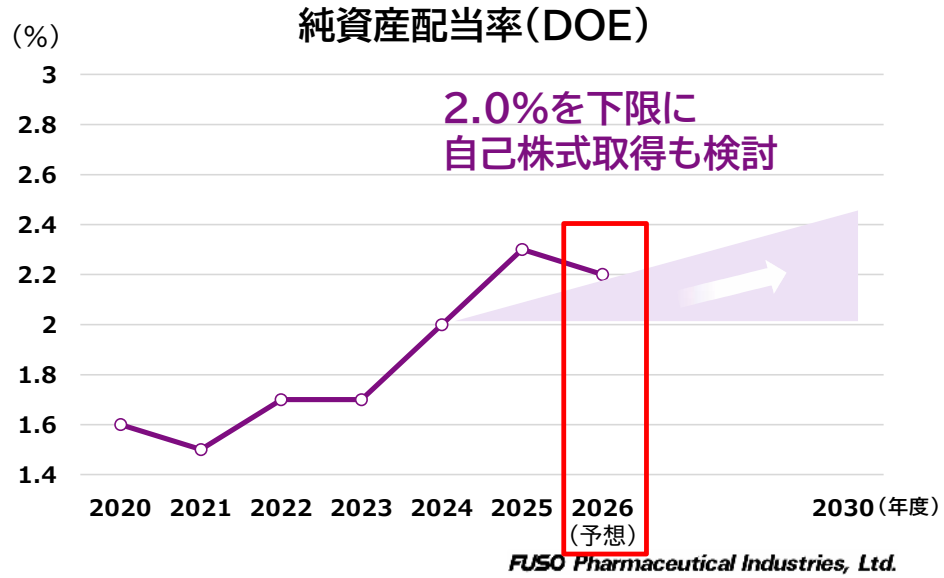
中期方針

安定供給体制のさらなる強化に向けた投資や成長分野への投資と、株主還元のバランスを考慮しつつ、2030年度まで累進配当とすることを目標

配当額に関してはDOE（純資産配当率）2.0%を下限値とし、加えてキャッシュフローの動向等も踏まえた機動的な自己株式取得も検討

2026年度は、年間91円（45円／46円）の配当を予定





将来に関する記述等について

本資料に含まれる計画・予測・戦略に関する記述につきましては、本資料発表時点において入手可能な情報に基づいて当社が仮定・判断したものであり、既知または未知のリスクや不確実性が内在しております。したがって、実際の業績等につきましてはあらゆる要因により異なる結果となる可能性があります。

本資料には医薬品（開発中を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告や医学的なアドバイスを目的としているものではありません。

問い合わせ先
扶桑薬品工業株式会社　経営企画部　広報室
kouhou@fuso-pharm.co.jp
06-6969-1131（代）